



▲ 専大生を代表してあいさつする坂本さん



ネットワーク情報学部コンテンツデザインコース2年次生

理科教材「天気とその変化」完成—登戸小で披露



▲ 大人気のカード

と気温「天気の変化」空、坂本由南さんに感想
化」の4つのカテゴリー
を4班ずつで担当。ウェ
ブではクイズ形式で答え



ネットワーク情報学部
2年次のコンテンツデザ
イン基礎演習を履修す
約70人が、川崎市多摩区
の登戸小学校(井上なお
み校長)5年生の理科天
気とその変化」を学ぶ手
助けとなる教材を作成
し、7月17日に同小で
レゼンテーションを行っ
た(本学での交流会の様子
は「風とその観測」気温
ゲットだぜ!」班の一
本紙452号既報)。

「もっとカードがほしい」という声があがり、当初の狙いは達成できま
したが、小学生の意識が
カードに集中し過ぎてし
「もったいなくて」とい
う声も聞かれました。本
物のカードと直接触れ合
うことで、コンテンツを
デザインする楽しさを
伝えることができました。
「もっとカードがほしい」という声があがり、当初の狙いは達成できま
したが、小学生の意識が
カードに集中し過ぎてし

ユーザーのことを考えてつくる大切さ実感

「ユーザーのことを考えてつくる大切さ実感」
担当ディレクターの栗芝正臣
准教授は、小学校との交流につ
いて「学生たちは、自ら制作したコンテンツに
真剣に見入る子どもたちの姿や、喜ぶ顔
を目の当たりにし、自分
の制作した表現が他者に
どのよう理解されるのかを
実感できたのではないかと
思います。本物のカードと
直接触れ合うことで、
コンテンツをデザインする
楽しさを伝えることができました。

「ユーザーのことを考えてつくる大切さ実感」
担当ディレクターの栗芝正臣
准教授は、小学校との交流につ
いて「学生たちは、自ら制作したコンテンツに
真剣に見入る子どもたちの姿や、喜ぶ顔を
目の当たりにし、自分の制作した表現が他者に
どのよう理解されるのかを
実感できたのではないかと
思います。本物のカードと
直接触れ合うことで、
コンテンツをデザインする
楽しさを伝えることができました。

「ユーザーのことを考えてつくる大切さ実感」
担当ディレクターの栗芝正臣
准教授は、小学校との交流につ
いて「学生たちは、自ら制作したコンテンツに
真剣に見入る子どもたちの姿や、喜ぶ顔を
目の当たりにし、自分の制作した表現が他者に
どのよう理解されるのかを
実感できたのではないかと
思います。本物のカードと
直接触れ合うことで、
コンテンツをデザインする
楽しさを伝えることができました。

「ユーザーのことを考えてつくる大切さ実感」
担当ディレクターの栗芝正臣
准教授は、小学校との交流につ
いて「学生たちは、自ら制作したコンテンツに
真剣に見入る子どもたちの姿や、喜ぶ顔を
目の当たりにし、自分の制作した表現が他者に
どのよう理解されるのかを
実感できたのではないかと
思います。本物のカードと
直接触れ合うことで、
コンテンツをデザインする
楽しさを伝えることができました。

30年の歴史「サーフィン愛好会」が3位入賞



▲ 前列左端が顧問の池本教授。同右から3人目、盾を持つのが齊木代表



▲ 健闘した入江啓太さん(法4)

6月21日から23日まで千葉県千倉海岸で行われた「第37回春季全日本大学サーフィン選手権大会」で、30年の歴史を誇るサーフィン愛好会が団体3位と健闘した。28校約250人が参加、クォーターファイナルに齊木倫生名代表(商3)ら3人が進出し、順位ポイントを獲得した。齊木代表は「みんなの頑張りが結果につながった。この調子で秋季大会(10月、静岡県白浜海岸)も上位を目指します」と話した。

20人の部員は千葉県夷隅海岸に借りたクラブハウスに、週末に泊まり込みでの練習を行っている。顧問の池本正純教授は「上位校は体育会系クラブばかり。愛好会として全国レベルで戦っている彼らには感心する」と賛辞を送る。齊木代表は「部員はほとんどが初心者ですが、明るく、楽しくをモットーに活動しています。波に乗れた時の喜びは格別。ぜひ多くの人に経験してほしい」と魅力を語る。

同愛好会ホームページ(<http://pksp.jp/seashu-surf/>)にアクセスを。

漫画研究同好会



民家園通り商店会夏まつり

7月19日、川崎市登戸で「第10回民家園通り商店会夏まつり」が開かれ、吹奏楽研究会がパレードと力強い演奏で、オーピングを盛り上げた。写真1が開かれ、吹奏楽研究会がパレードと力強い演奏で、オーピングを盛り上げた。写真2がまた、キャリアデザインセンターの課題解決型インターンシップで市民団体「のぼりとゆえん隊」に参加している8人は、商店街の店の看板を、祭りに来た人にカナルにデザインしてもらおう市民参加型のアートイベントを行った。写真3。

NewGround 新しい見方 26

小林 辰明 (経済3・ジャーナリズム研究会)

賢い夏休みの過ごし方

夏です。夏休みです。観光産業が大いに盛り上がり、海水浴場やプールが人で埋め尽くされる8月です。日本列島全体が熱気に包まれ、国民全員がうだるような暑さうんざりし、さながら我慢大会のごとく滝のように汗を流す季節です。日本人なら誰もが一度は恨むこの気候の中、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

学生という身分にある私たちにとって、夏休みと宿題との関係は切りたくても切れないもの。それは小学生のころから変わりません。しかし大学生である今、夏休みの期間が今までと少々違うことも手伝い、なかなか夏期課題に着手できないという人がほとんどではないでしょうか。レポートがいつぱいある。でも夏休みは9月中旬までであるからまだやらなくても平気。しかも暑い。とりあえず遊ぶか。そんな思いが皆さんの心の中に根付いていることでしょう。しかし、そんな考えは甘いと言わざ



るをえないのがこの世の中。はっきり言って、そのような考え方の人は8月だろうが9月だろうが課題なんてやりません。おそらく手をつけるのは提出日の3日前あたり。前日には徹夜。課題によっては後期が始まってから始める人もいます。そのような事態になってしまっただけでは、いったい何のための夏休みだったのでしょうか。そうならないためにも、夏休みの課題は早めに終わらせるべきでしょう。「暑い」というのは、先延ばしの理由にはなりません。クーラーをつける。気温が下がる夜中にやる。図書館に行く。暑さをどうにかする方法はいくらでもある以上、もはや気温が高いことは言い訳にはなりません。休み明けの登校をさわやかに、そして軽やかに迎えるためにも、夏休みの課題は早めに終わらせることをオススメします。